

# ゆめみにゅーす



# YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 40  
発行日 平成28年5月2日  
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園  
問い合わせ 044-588-4030

飼育展示数 哺乳類:25種213点  
鳥類:28種111点  
爬虫類:11種47点  
(平成28年4月末日現在)

## ヤマシマウマのキララが引っ越しました

2013年1月に生まれたハートマンヤマシマウマのキララ(♀)が、将来の繁殖のため茨城県にある日立市かみね動物園へ引っ越しました。当面は、キララの母・ミドリのおばあちゃんにあたるユメコと2頭で暮らしていくことになります。

夢見ヶ崎動物公園にいる間は、ゆめみにゅーすでも紹介したことがありますが、ません棒を留める鉄製のピンをひん曲げてしまったり、他のウマの部屋の扉をいじって外から開けてしまったり、飼育担当にわざと意地悪をするかのように、部屋に入るのを焦らしたりするなど、最近ではおてんば娘の一面が強く見られたものの、人懐こい雰囲気も持ち、スタッフだけでなくお客さんにもかわいがられてきました。

野生では絶滅の恐れがある貴重な動物であり、日本国内でも11頭しかいないため、繁殖がうまくいくことを祈っています。

それよりも、新しい環境に早く慣れて、かみねでも元気にやっていってくれることを望みます。キララ、元気でね!



## ❀ 新任職員紹介 ❀

4月から新しく仲間入りした職員のご紹介です。



まだまだ、飛び交う言葉の意味も分からない不慣れな状態ですが、1日も早く慣れるようがんばります!  
(事務 森山真由美)

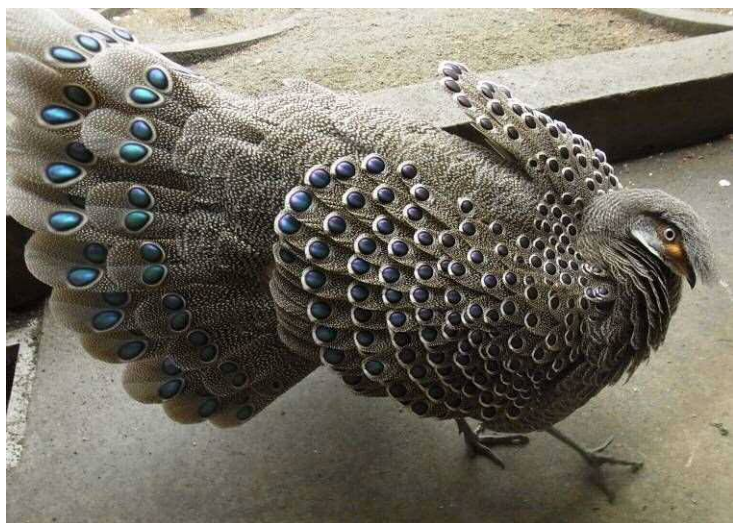




# ★ピックアップ動物★

## ハイロコクジャク

鳥綱 キジ目 キジ科



東南アジアの低地から高地の熱帯常緑林に生息し、果実や昆虫等を食べる雑食性の鳥で、コクジャクのなかでは最も大型です。

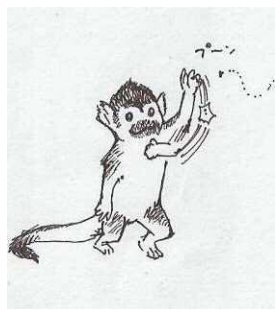
現時点で絶滅の危機に瀕してはいないと考えられていますが、現地では数が減少し、国際的な商取引は制限されています。

特徴は頭のリーゼントのような羽と、灰色の羽毛にきらめくメタリックな色（構造色といい、光の当たり方で色が変わって見えます）の目玉模様です。オスは繁殖期の春、メスに対する求愛の際に翼と上尾筒とよばれる尾羽の上の羽を広げます。これが縦にも横にも自由自在に広がるもので、メスがどっちにいても対応可能です。さらに、メスに対して食べ物を嘴でプレゼントする姿も見られることがあります。

現在、夢見ヶ崎動物公園にはオスしかいませんが、メスが仲間入りすることがあれば行動に変化が出ると思われます。

ちなみに、メスへの求愛以外にも、「威嚇」のために羽を広げることがあり、飼育員に対しては羽を広げながら丈夫な脚で蹴ってきたり、上から頭に奇襲をしかけてきたりすることもあり、あなどれません。

## 獣医の日記



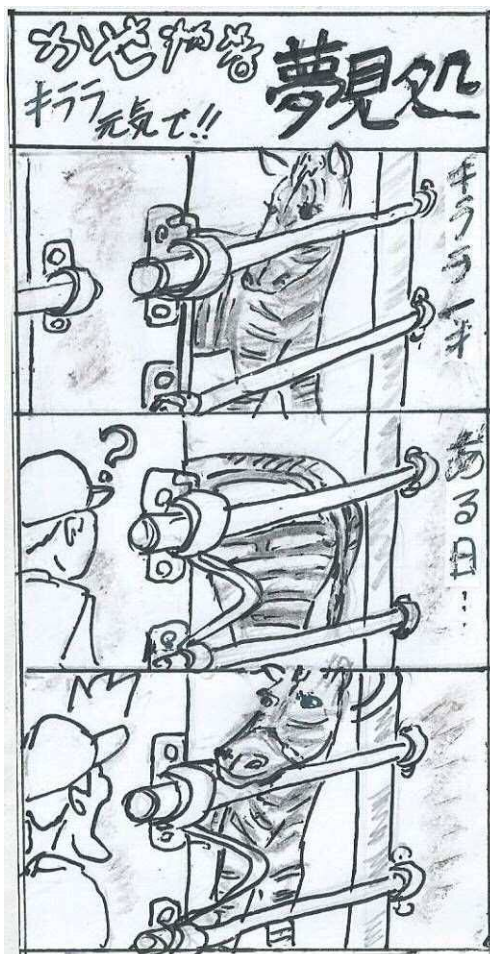
この冬は暖冬でしたが、暖くなるのも心なしか早く、動物たちの春の渡りやうごめきも早いような気がします。

暖になると出てくる動物のひとつが蚊です。今年は4月半ばには飛び回っていました。

蚊に刺されるとかゆくて不快だけでなく、衛生害虫と呼ばれ、蚊が媒介する病気が深刻です。人間ではデング熱や日本脳炎などのウイルスが有名ですが、赤血球に寄生するマラリア、血管に寄生するフィラリアなどの寄生虫も運びます。

血を吸われるときに、病原体を動物に感染させていくので、水場が多く、屋外で過ごす動物が多い動物園にとっては嫌な存在です。しかし、たとえばフィラリアであれば、蚊に刺されて動物の体の中に侵入した子虫を薬で殺すことができるため、レッサーパンダたちは蚊の季節は毎月1回薬入りのリンゴを食べることで健康を保っています。現在4頭いるパンダのうち、3頭は上手にりんごを片手でつかんで食べるのですが、ケイコはまだまだ下手っぴなため、薬を上手に食べられるか心配です。ただし、血を吸わない種類の蚊もいます。血を吸う種類であっても、メスが産卵準備の時期に吸うだけです。それも、気温が15℃を超えてこないと言われている。…とわかっている、飛んでいるのを見るだけで警戒してしまうのですが。

ちなみに、リスザルやオマキザルたちは、しばしば涼しい顔をして蚊を片手でキャッチしています。動体視力も反応の速さも、かないません。



## ★動物たちの主な移動(平成28年2月1日～平成28年4月30日)★

マーコール(♀1死亡)、パラワンコクジャク(♀1死亡)、ハートマンヤマシマウマ(♀1搬出)